

「2018年香港中文大学サマープログラム参加報告書」

京都大学総合人間学部4年 (氏名) 伏見 恵介

香港中文大学での約3週間に渡る滞在は、とても濃密で刺激的なものでした。短期留学の前後で私の中国語に関する実力と意識は大きく変化したと感じます。今回は現地での生活やプログラム内容、私が得られた経験などをここに報告したいと思います。

(1)大学生活。授業は初級(Lower)から上級まで実力に応じて幅があり、私は下から2番目の初級(Upper)クラスに所属しました。午前はリーディングとライティング、午後はスピーキングとリスニングが中心でした。クラスを担当した先生方は非常に教育熱心で、午前は先生独自の資料で授業が進行し、添削にも親切に応じて頂きました。また午後の授業は日常会話をペアで練習する内容でしたが、初学者がつまずきやすい発音を丁寧に修正して頂いたり、先生作詞の替え歌で文法を覚えるなど、基本でありながら斬新な授業でもありました。

(2)放課後は基本的に自由な時間でしたが、様々なアクティビティを楽しむこともできます。篆刻の製作やシウマイや麻婆豆腐の料理教室などのプログラムが提供されました。また週末には他大学の学生とグループで香港の街を歩く「Local Cultural Tour」などのイベントも開催されています。他大学の学生との交流や現地文化の学習は刺激的で、平日の言語学習だけではカバーしきれない体験や発見を得ることができました。

香港留学でのもう一つのハイライトは、プログラム1週目の現地学生との交流会です。京都大学側は、漫画文化や食文化、茶道文化について、香港中文大学側は、香港の建築物の歴史や時代と共に変化する葬儀文化などをテーマに発表しました。中文大学の学生は非常に研究熱心で、自らが住む香港の歴史や政治などについて深い造詣がありました。彼らとの交流は面白い体験であると同時に、私がこれから自分の研究を続けて行く励みにもなりました。

(3)私自身の変化。中国への興味はバックパックで訪れた3年前からありました。しかし、私が中国語の勉強を本格的に始めたのは、このプログラムの3ヶ月前です。文法の基本をざっと抑えたばかりで、発音や語彙力は満足とは程遠いものでした。そんな状態の私でしたが、このプログラムで実力が大いに向上したと思います。何度も発音の矯正を受けることで発音に対する意識が敏感になり、新しい語彙や文法も身につきました。休日に中国の深圳を訪れ道案内などをしましたが、単純な会話であれば現地人と意思疎通が取れるように成長。自分の中で中国語が、文字の配列から実用的な言語になったという確かな手応えを得ることができました。

私は今年度で卒業ですが、これからも中国語の学習は続けていきたいと思っています。異なる言語を学ぶことは刺激的で楽しいものですし、就職先でも繋がりが生まれるかもしれません。今回のプログラムで得た実力や手応えをさらに深化させ、将来につなげていきたいと思っています。

最後に、貴重な時間を共に過ごした京都大学の仲間や教授陣、サポートをして頂いた京都大学、香港中文大学双方の職員の方々に感謝致します。